

YAMA_HE_SAMMPO_IKOU

さんぽき
かみきた山歩記 -003

辻堂山周回コース



辻堂山展望台から下山する際に見えた和佐又山。この角度から見ること、大普賢岳を後ろに従えて凛々しい姿である

左：国道 169 号線から北山川へ下り、対岸に渡渉する
中：モルレル沿いを上がっていくルートファインディングは不要だが、ものすごい急傾斜
右：標高が上がるにつれて、雪が深くなってきた

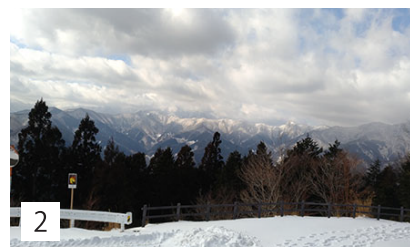


上：モルレルが終わり尾根にあがること。獣が滑り降りる跡がある
下：辻堂山までは基本的には尾根通しで歩くが、尾根が細くなっているところは林業の作業道を歩く。雪が深く歩きにくい

北 海道開拓の先駆者であり「北海道」という名前を命名したことで知られる松浦武四郎。幕末から明治にかけて活躍した、冒険家であり著述家でもある松浦氏は晩年、最後の仕事として大台ヶ原の開拓に力を注いだ。生家のある松阪には伊勢参宮街道があり、全国各地からの参拝者、物資や文化・情報などが行き交う拠点となっていた。そのため、幼少期から各地の文化に触れる機会が多く、自分の知らない世界、行ったことのない土地に強い興味を持っていた松浦氏。好奇心が原動力となり、日本中を旅し各地の山へ登り、人や文化・風習に触れることがライフワークだった。

松浦氏が作った北海道の地図を見ると、未開の地であった北海道の形を記すのはもちろん、内陸に至るまで細かい字でびっしりと地名が書かれており、いったいどれほどの情熱と探求心があれば、これを完成させることができるのであろうか？想像もつかないほどである。そんな松浦氏は、大台開拓の際、何度か上北山村に訪れ、そこを拠点に大台ヶ原へ向かって歩いている。いったいどこを通っているのだろうか？ぜひとも同じところを歩いてみたい。すでに色々調べている村の方がいらっしやるので協力して武四郎の道を行ってみたい。すでに色々調べている村の方がいらっしやるので協力して武四郎の道を行ってみたい。

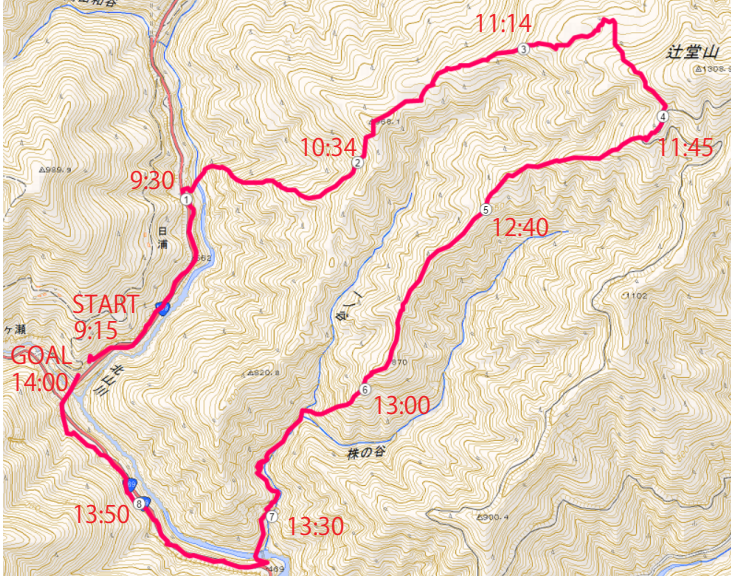
何度か大台ヶ原へ訪れている松浦氏だが、上北山村・天ヶ瀬の民に道案内をしてもらい和佐又や大普賢岳へ行つたようだ。そして、天ヶ瀬集落から辻堂山を経由して大台ヶ原に入つたと記録を残している。天ヶ瀬の集落は、和佐又山の麓にある。北山川を挟んで、向か



1
 の道は、崩れている箇所もあり注意が必要だが、もう少し踏み跡がしっかりすれば十分に山歩きを楽しめるコースになりそうである。

い側が辻堂山。地形図をまじまじと眺めて、どこ通ってのかな...と想像する。ワクワクして楽しい時間である。松浦氏の記録によると、天ヶ瀬集落すぐ横にある日浦集落あたりから北山川へ下り、そこから辻堂山へ登っているようである。今では残っていない地名などもあり、はっきりとはどこを通っているかは不明だが、おそらく緩やかな尾根道を通っているのではないだろうかかと想像する。今回は事前調査(という名の気ままな山歩き)だし、日浦集落から北山川へ下りた付近からモノレールの線路沿い上がり、辻堂山から伸びている尾根に取り付くことにした。その尾根沿いで辻堂山方面へ。山頂はあまり展望はないので、今回ピークは踏まずに林道へ。その後、株の谷・一の谷方面へ下りる古い登山道を使い下山。

- 1: 辻堂山山頂周辺は、なだらかで開けているので、スノーシューを楽しむのにもいい
- 2: 林道沿いにある辻堂山展望台から奥駈の稜線を眺める
- 3: 辻堂山から一の谷におりてきたところうっすらと古い登山道の名残が残っている
- 4: ウサギの足跡が先導してくれた
- 5: 一の谷と株の谷が合流し、北山川に流れこむ少し手前がある小さな滝。最近の寒さのせいで、周りが少し凍って小さい氷瀑になっていた



左: ピリ辛スパイシーラーメンで、体を温める。寒いときはこれに限る!
 右: 国道 169 号線から見る天ヶ瀬の集落。よく見ると山の中腹に開けたところがある



今月のひとこま



和歌山・那智勝浦町色川で開催された「狩猟体験ツアー」に行ってきました。その時にいただいた鹿肉を利用して、色んな料理を試作鹿肉の有効利用を考えていきます! おすすめレシピがあれば教えてください☆

* 歩行距離約 9 キロ・歩行時間 (休憩含む) 4 時間 40 分

【編集後記】

”松浦武四郎の歩いた道”とともに、もうひとつ気になっている”筏師”のこと。林業が盛んだったころ、村にもたくさんいたと思われる筏師について、写真や資料・情報などお持ちの方は、ぜひ小谷までご一報ください! 当時の林業に携わる話も合わせてご存知の方は、ぜひぜひ教えてください☆よろしくお願いたします

行政便り 上北山村通信「山へ散歩いこう」
 発行 地域おこし協力隊 小谷雅美
 発刊 偶数月第二水曜日
 連絡先 090-2064-4971

*小谷雅美協力隊員の山行記録は、ブログでも読めます。「山へ散歩いこう」で検索してみてください☆